

# H30年度 どこで、だれと、暮らしたいか部会振り返り・評価シート

H31年2月19日作成

## 1 今年度の活動について

### 【今年度の方針】

障害者にも対応した地域包括ケアシステムの構築における「協議の場」として位置付け地域生活を送るための協議検討を行う。

### 【今年度の取り組み内容】

開催回数	5回	開催月	8月、10月、11月、12月、1月
------	----	-----	-------------------

### 具体的活動内容

長岡市における障害者にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けた協議の場として  
(1)「改めて地域生活を送るうえでどのような地域状況か」等、地域の現状確認を行う。  
➡精神科病院・障害者支援施設からの地域移行及び地域で暮らし続けるために何が必要か？  
(2)現状確認から見えてきた課題等について整理し、今後の必要な取組みを検討する。

### 【今年度の取り組み結果】

(今年度の活動からどのような結果となったのかを記載)

『地域生活を送るうえでの現状』及び『現状から改めてどんなことに取り組む必要があるか？』についてまとめを行った。  
※詳細別紙参照。

### 【取り組みの成果】 ※モニタリングを実施した場合のみ

(取り組みの結果が「どのように地域へ還元できたのか」をモニタリングから確認した内容の記載)

## 2 今年度の振り返り及び評価について

### 【今年度、協議会活動を通じての振り返り(メンバーの感想・意見)】

メンバーが協議会での活動を通じて感じたことや気づき、今年度部会・ワーキングの取り組みに関すること、長岡市協議会の運営や体制に関する課題・意見等

- ・今まで漠然としか考えていなかったが、地域移行ができていくとよいが、現実としては、環境が不十分である。体制づくりが求められる。素直に地域移行を勧められるようになると良い。
- ・職員に地域移行の考えがないことにおどろいた。
- ・本人がどうしたいか。退院すること、退所することが地域移行ではない。
- ・隔月開催は、何を話したを忘れてしまうので毎月開催に変更してよかった。
- ・開催回数はちょうどよかった。

### 【協議会の機能について】

今年度の活動の中で(活動の振り返りから)、どのような協議会の機能があったかを確認する。

※協議会の機能詳細については別紙を参考。

	確認した機能の内容 (どのような部分が機能であったか、なかった場合はなぜなかったか等)
情報機能	障害種別での差はないと思った。・ピアの利用や地域移行は進んでいないと感じた。
調整機能	・多職種での意見が聞くことができた。ネットワークができた。
開発機能	・地域移行できる環境等はまだまだ不十分なので、実現させるためには様々な体制づくりが必要である。・入院・入所は悪ではない。地域移行が本人のやりたいことをかなえるための手段である。・地域移行は個別支援になるが、全体的にどのように取り組めばよいかかわからなかった。
教育機能	障害種別での差はないと思った。・多職種での意見が聞くことができた。ネットワークができた。・本人、支援員、家族に部会の協議内容を知らせ、理解が必要であると思った。・部会の内容を職場でアウトプットすることが困難であった。他の人も出られれば良い刺激になったと思う。・入所施設では、施設で生活が完結するため、中での生活を充実させることに目が行きがちである。職員研修等で地域移行の周知ができればよい。
権利擁護機能	・地域移行のとらえ方 本人がどうしたいかが重要である。退院・退所することが地域移行ではない。・本人と家族の意向が大切。どのような生活を送りたいか。
評価機能	・ピアの利用や地域移行は進んでいないと感じた。・地域移行は個別支援になるが、全体的にどのように取り組めばよいかかわからなかった。・部会の内容を職場でアウトプットすることが困難であった。他の人も出られれば良い刺激になったと思う。・入所施設では、施設で生活が完結するため、中での生活を充実させることに目が行きがちである。職員研修等で地域移行の周知ができればよい。

## 【今年度の振り返り・協議会の機能から確認できた成果】

※モニタリングによる成果(地域へ還元できたかどうかの成果)とは異なることに留意

- ・入院・入所にも役割がある。それを踏まえて本人がどうしたいのか。そこに目を向ける。
- ・職場では地域移行について、共有できていなかったが部会で地域移行について考えている人が大勢いてよかった。
- ・地域移行について、支援者に認識についての温度差があった。
- ・地域移行のハードルがまだあることがわかった。
- ・うまくいかないことが多く、挫折しそうなこともあったが部会に出たことで初心に戻ることができた。
- ・地域で支えるには多職種連携が重要。
- ・意思決定支援をするには、意思表示できるように情報提供することが必要。
- ・隔離拘束を減らすようにしているが、ただ椅子に座っているだけ  
>>>グループホームに行くことが地域移行ではなく、活動させるが大切。

## 3 来年度の取り組みについて

来年度の継続	継続	終了
終了の理由	部会としては一旦終了とし、各ワーキング(身障、知的、精神)のモニタリングに力を入れることとする。部会の再開は、ワーキングの取組結果を踏まえて、平成32年度をめどとする。 地域包括ケアシステムの協議の場として部会に位置づけしていきたい。	

※部会を一旦終了とする場合については、運営会議にて協議の判断材料とできるようその理由を明確に記載すること。

今年度の取り組みに対するモニタリングの実施	有	無	モニタリング実施時期	年	月
-----------------------	---	---	------------	---	---

※ワーキングのみ記載

## 【振り返り・評価内容を受けて、来年度改善を行うこと】

※来年度継続の場合

会議内容や方法に取り入れることなど、具体的に記載する。

## 【来年度の方向性・具体的取り組み内容や引継ぎ事項等】

※来年度継続の場合